



博士課程教育リーディングプログラム
免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム

NEWS LETTER



number 4
2015 summer



LGS
LEADING GRADUATE SCHOOL
AT CHIBA UNIVERSITY



1st LGS Winter Campの開催

2015年2月14日・15日に、千葉・かずさアカデミアパークにおいて「1st LGS Winter Camp」を開催いたしました。この企画は今年度が初めての開催であり、学生たちから提案する創造的なビジネスモデルのプレゼンテーションと、海外から招聘した演者の講演を2本の軸として催されました。

今年のビジネスモデルのテーマは、「2050年における新たな感染症対策の提案」でした。学生を5名1チームの全5チームに振り分けて、各チームとも2014年の秋より度重なる議論を重ね、試行錯誤の末に様々な提案を練ってきました。

まず初日に事前に練ってきたアイデアを発表し、その後に行われたディスカッションをもとにアイデアの更なる改善を行いました。翌日、改善されたアイデアを再度発表し、独創性・実現可能性・持続性などを考慮して最も優れたアイデアが投票によって選出されました。

各チームとも趣向を凝らした斬新な提案を行いました。病原性の強い病原体を可視化するアイウェアシステムを利用した感染予防策を提案した「チームMKYNN」が優勝しました。

日常の研究・教育環境を離れ、豊かな自然に囲まれた場所で、くつろいだ雰囲気の中、医学薬学領域の治療学に関する検討・討議をより深く行うとともに、将来の夢とリーダー像を語り合い、本プログラムに所属する大学院生間の横の繋がりを強化することができました。

今後も、形は変わっていくかもしれませんが、本プログラムではこのような企画を続けていく予定です。



LEADING GRADUATE SCHOOL AT CHIBA UNIVERSITY

February 14-15, 2015
Kazusa Akademia Hall 201A

1st LGS Winter Camp

PROGRAM

Saturday, February 14, 2015

13:00-13:30 Registration MC: Yutaka Tamura

Opening Remarks MC: Yutaka Tamura

13:30-13:35 Takeshi Tokuhisa (President, Chiba University)

Outline of Leading Graduate School Program MC: Yutaka Tamura

13:35-14:00 Tohinger Nakayama (Program Coordinator, Leading Graduate School, Chiba University, Department of Immunology, Graduate School of Medicine, Chiba University)

Session1: Provisional Presentation MC: Yuki Morimoto

14:00-16:05 Leading Graduate School Students Provisional Presentation (English) (15 min Presentation, 10 min Discussion x 5 teams)

16:05-16:20 Coffee Break

Session2: Lecture & Discussion MC: Yutaka Tamura

16:20-17:00 Makio Iwashima (International Advisory Board, Leading Graduate School, Chiba University, Van Kesteren Cardiovascular Research Laboratory, Leiden University, Chicago, Illinois School of Medicine)

Session3: Progress Presentation MC: Yuki Morimoto

17:00-17:50 Leading Graduate School Students Shigeru Satoh (Department of Immunology, "China Interactive Meeting") Mariko Mori (Department of Molecular Cell Biology, "Abstract General Education & Winter Camp") Togo Aoshima (Department of Cardiovascular Medicine, "WHO Internship") Hsueh Li (Department of Radiotherapy, "TRCEN Summer Program") Koo Nagasawa (Department of Pediatrics, "California Internship")

Session4: Presentation & Discussion MC: Yutaka Tamura

17:50-18:10 Gene Lay (DVM, Founder, President and CEO BioLegend)

18:10-19:00 Chicken (Oura Akademia Park Hotel)

19:00-20:30 Dinner (Oura Akademia Park Hotel)

20:30-21:30 Discussion Meeting (Oura Akademia Park Hotel)

Sunday, February 15, 2015

Session5: Group Discussion MC: Yuki Morimoto

9:00-10:00 Leading Graduate School Students

10:00-10:15 Coffee Break

Session6: Final Presentation MC: Yuki Morimoto

10:15-11:05 Leading Graduate School Students (Final Year Members) Final Presentation (English) (10 min Presentation x 5 teams)

Closing Remarks MC: Yutaka Tamura

11:05-11:10 Haruki Nakaya (Executive Program Office, Leading Graduate School, Chiba University, Vice President, Chiba University)

Inquiries Leading Graduate School - Administrative Office
Tel: 043-226-2817 / Fax: 043-226-2005
E-mail: lgs-jimu@chiba-u.jp

CHIBA UNIVERSITY LGS GVP EBP

お問い合わせ先



千葉大学医学部リーディング大学院事務室
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

TEL.043-226-2817
lgs-jimu@chiba-u.jp

News Letter
number 4

■発行日/2015年7月22日



英語による研究発表会

入試・教務委員会 委員長 三木 隆司

博士課程教育リーディングプログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」では、3年次進級時に「質保証のための進級試験（Qualifying Examination）」を行うこととしており、① 英語力AA評価、② 英語による研究プレゼンテーション、③ 英語による仮想ビジネスプランのプレゼンテーションの3項目により、進級判定されることとなっている。

進級試験の1つである「英語による研究発表会」が、平成27年3月4日、5日に千葉大学医学部構内で行われた。本発表会は、研究内容の機密保持の観点から非公開で実施された。今年度は、本プログラムの1期生14名がこれまでの研究成果を英語でプレゼンテーションし、3名の試験委員が下記評価項目により総合評価した。

- A. 研究目的／研究計画／実施概要
- B. これまでの研究成果
- C. プレゼンテーションの準備／発表の評価
- D. 質疑応答の評価
- E. 英語発表の評価

進級判定基準は、予め「100点満点で60点以上を合格」と規定していたが、素晴らしいプレゼンテーションが相次ぎ、全員が高い評価を受けて合格した。



ラクオリア創薬におけるインターン研修

2期生 臨床薬理学 宇津 美秋

私は2015年2月23日から26日の4日間に渡り、ラクオリア創薬にて研修をさせていただきました。ラクオリア創薬は2008年に設立されたベンチャー企業で、化合物の初期開発を行いProof of Concept (POC) を得られたものを提携企業に導出する、というビジネスモデルを取っています。この研修では、ラクオリア創薬で実際に開発を行っている化合物について、適応症を決定し非臨床試験からPOCを得るまでの初期開発計画を立案しました。大学院の講義で薬の開発については勉強していましたが、実際にラクオリア創薬の社員の方々と議論してみると初めて知ることがたくさんありました。例えば、これまでは非臨床試験が全て終わってから第1相試験に入るのだと思っていましたが、実際の非臨床試験は臨床試験に入る前に必ず終わらせなければならないものと臨床試験と同時並行で行うものがあり、どの試験をどのようなタイミングで行うのか決めるのはとても難しかったです。また、First-in-Human試験における初回投与量の設定基準や用量をどの位の間隔で上げていけば良いか等、講義では全く習わないことも教えていただき大変勉強になりました。最終的に、どのような被験者（患者か、健康人か）を対象としどのような対照群（プラセボか、既存薬か）と比較してどのような差が認められればPOCを得られたと言えるのか、非常に悩みながらも考えをまとめ、研修最終日に発表しました。まだまだ考えの足りなかった部分も多くありましたが、薬の開発の実際を体感することができ充実した4日間でした。





LGS学生の顔合わせ

LGS2期生 李 恵子

2015年4月10日（金）、本学医学部本2階大カンファレンスルームにて、本プログラム（LGS）3期生に対する入学ガイダンスが開催され、3期生12名及び関係教員らが参加した。

斎藤教授の開会の挨拶から始まり、シラバスや履修案内についての説明が行われた。田村准教授から治療学科目について、八木特任准教授からRIKENサマープログラムについての詳しい説明があった。最後に中山教授から3期生へ合格通知書と白衣・パソコンが授与され、3期生の身の引き締まる様子が伺えた。

この後、1、2期生も参加し、LGS全学生及び関係教員らの集合写真撮影が行われた。また、本プログラムの優秀大学院生賞の発表があり、1期生の森井真理子さんと森本侑樹さんが表彰された。

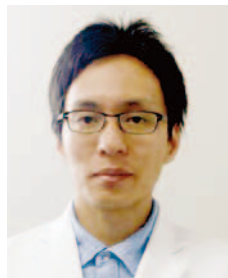
表彰式に引き続き、LGS全学生の顔合わせ及び海外研修等の発表会が行われた。

この会は、2期生を中心に企画し、司会進行は私2期生の李恵子がつとめさせて頂きました。3期生に本プログラムで行われる各イベントについて詳しく知って頂くため、1、2期生からの以下の5名の学生による海外研修等に関する発表が行われた。

- 1) カリフォルニア研修 (1期生：芳賀 祐規)
- 2) WHO研修・日独シンポ (2期生：山崎 璃沙)
- 3) ラクオリア研修 (2期生：清良 尚史)
- 4) Winter Camp (2期生：山本 健)
- 5) CIM (1期生：佐藤 俊平)

全学生による自己紹介に続いて、3期生のプログラム等に関する全体的な質問に1、2期生が回答しアドバイスを与えることで、短い時間ではあったが有意義な交流の場となった。





藤本 真徳

＜所属＞
細胞治療内科学

●研究内容

iPS/ES細胞におけるp53関連linc-RNAの探索と機能解析

●目標

大学院で新規性のある面白い仕事をつまとめることが目標です。MD-PhDとしてできることが何か考えることを忘れず、新規治療につながれるようなテーマにも取り組みたいと思います。

●一言

貴重なお話を伺い、なかなかできない経験から学ぶことのできるこの環境を十分にいかし、いい結果がだせるよう頑張りたいと思います。

Ola Mohammed
Kamel RIZQ

＜所属＞
細胞分子医学

●研究内容

New targets for the treatment of multiple myeloma (MM).

●目標

Multiple myeloma is an incurable hematologic malignancy. I hope my current research could provide the rationale for novel treatment strategies to improve patient outcome in MM.

●一言

Joining LGS is a great opportunity to learn and conduct research with some of the finest graduate students in Japan and the world.



天海 博之

＜所属＞
先端応用外科学

●研究内容

手術手技や知識の獲得

●目標

現在、一般外科医として研鑽を積んでおります。まずは将来の研究に役に立つ手術手技や知識の獲得に励みたいと思います。

●一言

このプログラムにおいて、異なる分野の方々と交流することができればと思います。



石神 智行

＜所属＞
消化器・腎臓内科学

●研究内容

現時点では詳しい研究テーマは、決まっておりません。

●目標

臨床につながる基礎研究を目指していきたいと思っています。

●一言

リーディングプログラムを通じて、自分の可能性を広げていきたいと思っています。



大谷 龍平

＜所属＞
神経内科学

●研究内容

マイクロRNA発現プロファイルに基づく免疫性神経疾患分子ネットワークの解明

●目標

多発性硬化症を始めとする免疫性神経疾患において、複雑な免疫応答を理解する一端となり、治療につながるような成果を残したい。

●一言

日常診療における素朴な疑問や気づきを大切に、研究活動に生かしていきます。



菅野 敏生

＜所属＞
免疫発生学

●研究内容

CD4陽性ヘルパーT細胞における免疫応答能と細胞内代謝機能の相関性の解析

●目標

基礎研究を充実させることで医療の発展に貢献したいと考えています。先入観にとらわれず柔軟な発想をもつ研究者を目指しています。

●一言

医学薬学など様々な分野の方と交流を深めることができ、有意義な時間を過ごしています。様々な知識を吸収し、一層努力していきます。



熊谷 仁

＜所属＞
細胞治療内科学

●研究内容

褐色脂肪細胞に対するCXCL12の役割の解明

●目標

褐色脂肪細胞の活性化により代謝を改善することで、糖尿病患者の治療に繋がりたいです。

●一言

与えられた環境、様々な分野に属する仲間たちとの出会いを活かして、研究生生活を充実したものにしたいと思います。



中川 拓也

<所属>
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

●研究内容

HPV関連咽頭癌のエピジェネティック解析

●目標&一言

臨床を通じて、より多くの患者さんを治療するには革新的な治療の開発が必要と感じました。LGSは基礎研究と臨床とをつなぐ架け橋になると思います。また、海外留学への一歩を踏み出すこともできると思います。海外で自分の能力を発揮できるよう、LGSで頑張りたいと思います。



根川 真実

<所属>
免疫細胞医学

●研究内容

がんに対するNKT細胞免疫治療における免疫チェックポイント阻害剤の果たす役割

●目標

免疫療法に興味があり、がん患者における免疫療法の研究してきました。免疫療法の状態における免疫抑制分子の作用機序を検討し、NKT細胞免疫治療における免疫チェックポイント阻害剤の役割を明らかにすることで、より効果的な免疫療法の開発を目指します。

●一言

LGSをきっかけに様々な分野で研究をしている先生、先輩や同期と話し合うことができ刺激的です。悔いのないように頑張りたいと思います。



福田 匡志

<所属>
アレルギー・臨床免疫学

●研究内容

腸炎におけるSox12の役割と制御性T細胞(Treg)の役割の解明

●目標

腸炎状態ではTregはSox12遺伝子が上昇していることがわかっているためSox12欠損マウスを用いて自己免疫性腸炎発症やTreg機能におけるSox12の役割を検討していきます。

●一言

LGSを通じて多くの人と交流し互いに刺激を与えあえたらと思います。



庄司 竜麻

<所属>
微生物薬品化学研究室

●研究内容

rRNA修飾の意義の解明：肺炎球菌病原性並びに宿主免疫機構

●目標

rRNA修飾が遺伝子発現制御に関与するという仮説の検証に肺炎球菌を用いて取り組んでいます。本研究は肺炎球菌の病原性及び宿主免疫応答の新たな知見の提供に繋がると考えています。感染の背景にある基礎を明らかにすることで治療に貢献出来る研究者を目指しています。

●一言

貴重な機会を活かし頑張りたいと思います。



薄田 健史

<所属>
生物薬剤学

●研究内容

膜タンパク質の特異的内在化を利用した新規ノックダウン法の開発

●目標

1) 基礎研究のみに留まらず、臨床現場まで含めた複合的な立場から科学を捉えられる研究者になりたいです。
2) 薬剤師の資格を取ります。

●一言

LGSでは、前線でご活躍されている医師の先生方と一緒に学ぶ機会をいただいております。「医療の本質とは何か?」という問いを常に持ちながら、日々頑張りたいです。



Kokiladevi ALAGARSWAMY

<所属>
腫瘍生物学

●研究内容

I am interested in investigating Cancer stem cells at molecular level and there by, find a solution to stop tumour relapse and metastasis.

●目標

Advanced cancer therapy still exists with drastic side effects. So I would like to investigate and find an effective therapy which is much more beneficiary to mankind. I consider Leading Program at Chiba University as a great and rare opportunity to gather enough Knowledge to improve my technical skills as well as enhance my research knowledge on novel therapeutics against cancer.

●一言

Medical Science is an ocean and I always believe that learning has no end point. I would like to gain enough knowledge to find new methods to prevent, treat and cure cancer. This is a great an opportunity to meet people from all over the world and get to know more about their ideas, believes in Medical science.